

平成29年度
地区教育会議のまとめ

平成30年3月
港区教育委員会

目次

I	実施概要	1
II	会議の要旨	
1	芝地区教育会議	4
2	麻布地区教育会議	8
3	赤坂地区教育会議	13
4	高輪地区教育会議	18
5	芝浦港南地区教育会議	23
III	地区教育会議を終えて	28

I 実施概要

教育委員会と各地区総合支所が連携して保護者や地域の声を直接聞く機会を設け、地域の特性や環境を生かした教育活動の推進と一層の充実を図るため、平成21年度から「地区教育会議」を実施しています。

参加者の発言の機会を増やすために、平成26年度から、参加者を2つのグループに分け、グループディスカッション形式で実施しています。

平成29年度テーマ

「地域で支える学校運営」

～教員が子どもと向き合う時間の充実に向けて～

事務局からの事業説明

- ・ 地区教育会議及びテーマについて
- ・ 「学校支援地域本部事業」について
- ・ 「部活動外部指導員」について
- ・

配布資料

- 資料1 【文部科学省】教員勤務実態調査(平成28年度)の集計(速報値)について(概要)
- 資料2 【東京都】東京都公立学校教員勤務実態調査の集計について(速報値)
- 資料3 【港区】港区立幼稚園、小・中学校教員の勤務状況の調査結果(概要)
- 資料4 教員が子どもと向き合う時間の充実に向けたこれまでの取組
- 資料5 港区学校支援地域本部事業の概要
- 資料6 中学校における部活動外部指導員の現状について

【芝地区】 1月23日(火) 18:00～20:00 区役所5階512・514会議室

出席者 公募区民9名、教育長、教育委員
校長・園長、総合支所長、次長
(計18名)
進行：庶務課長、学務課長



【麻布地区】 2月 7日（水）18：00～20：00 麻布地区総合支所 3階会議室

出席者

公募区民 10名、教育長、教育委員
校長・園長、総合支所長
（計 19名）

進行：庶務課長、学校施設整備担当課長



【赤坂地区】 1月 19日（金）18：00～20：00 赤坂地区総合支所 2階会議室

出席者

公募区民 10名、教育長、教育委員
校長・園長、総合支所長、次長
（計 19名）

進行：庶務課長、学校施設整備担当課長



【高輪地区】 2月5日（月）18：00～20：00 高輪区民センター1階集会室

出席者

公募区民9名、教育長、教育委員
校長・園長、総合支所長、次長
（計18名）

進行：庶務課長、図書・文化財課長



【芝浦港南地区】 1月30日（火）18：00～20：00

みなとパーク芝浦1階 芝浦区民協働スペース

出席者

公募区民10名、教育長、教育委員
校長・園長、総合支所長、次長
（計18名）

進行：庶務課長、教育政策担当課長



II 会議の要旨

1 芝地区教育会議

テーマ：地域で支える学校運営 ～教員が子どもと向き合う時間の充実に向けて～	
実施日時	平成30年1月23日（火） 午後6時から午後8時まで
実施場所	港区役所5階 512・514会議室
出席者	<p>公募区民等（敬称略・五十音順）：飯塚正倫、五十嵐晃一、石川啓子、佐野佐友里、菅家厚子、寺西伸政、半澤千佳子、藤野孝一、古橋義弘</p> <p>教育長：青木康平教育長</p> <p>教育委員：山内慶太委員、田谷克裕委員、薩田知子委員</p> <p>学校（園）長：宮崎直人赤羽幼稚園（赤羽小学校長）、齋藤幸之介芝小学校長、渡邊常次三田中学校長</p> <p>区職員：新宮弘章教育委員会事務局次長、新井樹夫芝地区総合支所長</p>
事務局	<p>中島博子庶務課長、藤原仙昌教育政策担当課長、山本隆司学務課長、瀧澤真一学校施設整備担当課長、増田玲子生涯学習推進課長、佐々木貴浩図書・文化財課長、松田芳明指導室長、金田耕治郎芝地区総合支所協働推進課長</p> <p>庶務課庶務係（佐京良江係長、中村直人、兵藤淳、永田よし子）、芝地区総合支所協働推進課（福永暢夫地区政策担当係長）</p>
議事次第	<p>1 開会 2 田谷克裕教育委員挨拶 3 出席者紹介</p> <p>4 テーマに関する説明及び報告</p> <p>(1) 地区教育会議及びテーマについて 中島博子 庶務課長</p> <p>(2) 「学校支援地域本部事業」について 増田玲子 生涯学習推進課長</p> <p>(3) 「部活動外部指導員」について 松田芳明 指導室長</p> <p>5 グループディスカッション</p> <p>6 結びの挨拶 青木康平教育長 7 閉会</p>
グループディスカッションでの主な意見（要旨）	
Aグループ	
渡邊校長	<p>授業をしっかり指導できる教師、生活指導ができる教師のほか部活動を指導できる人材が求められている。時間のない中、部活動を教えるのは大変な状況が実態としてある。校長会でも発言しているが、業務委託も視野に、働き方改革を進めていかないと将来の教員のなり手がなくなってしまう。</p> <p>働き方改革が子どもの学びの縮小につながってはいけないし、効率化にも限度があるので、人を増やしてほしい。勤務時間内に会議や三者面談、行事の朝練等を行い工夫や協力、理解を得ながら少しずつ変えている実態がある。</p>
A	<p>チャレンジコミュニティ大学等から人材を探すのはどうか。</p> <p>チャレンジコミュニティ大学修了生は、様々な活動を行っており、どこかと協力できないか模索している。</p> <p>先生方はすごく忙しいようにしているが、先生の喜びを確保することもすごく大事。教員の選考時にレベルが高い人を選ぶということも大事ではないか。</p> <p>人材バンクのようなリストを作成し、学校に提供し、学習のフォローをしてくれるような人材を探すことが必要。</p> <p>同様に遊びのコーディネーターもいるといい。</p>
渡邊校長	<p>教師自身が楽しんで仕事をしているのであれば、それはそのまま活かしていきたい。自分の同級生に陸上を教えたくて教師をやった人もいる。探せばそういう人材はたくさんいる。間をつなぐための人材バンクのような仕組みが組織として整備されていることが必要。</p>
B	

C	人材バンクのような組織は自分も必要だと思う。学校によってニーズはまちまちで、港区には色々な人材がいる。
D	知識だけでなく、技術も必要となると高齢者は厳しい。技術はないが、時間に余裕のある人の活用方法も考えられると良い。自身の経済活動を優先させて残業をしている教員もいるのでは。
A 渡邊校長	講師や支援員の若い方が部活動を手伝ってはどうか。 今もやれる人にはやっていただいている。
E	自分は学校評議員をやっているが、学校では朝一番から夜中まで働いている実情がある。卒業生に声をかけて手伝ってもらうのはどうか。大学生なら時間的な余裕もあるし、それぞれ学校によって事情があるので、学校のことをよくわかっている人に入ってもらうのがいいかもしれない。人材バンクだとその点は難しい面もある。
新井支所長	賛否あるが、全体として部活動を制限する流れがある。スポーツはエンドレスでやってしまうものなのでどこかで規制することは必要かもしれない。子どもに様々な体験をしてもらうことも重要。
D 青木教育長	残業については、熱心な先生が進んでやってしまうようなところもある。 子どもに教えることに喜びを見出して教員になった人はたくさんおり、そういった人の喜びを奪わないような方法が必要。技術的なことは外部指導員等専門家に関わらせ、引率は別の人をお願いするなど、事情に応じ色々な人に関わってもらうのがいい。
D	副校長の役割が事務仕事に追われて果たせなくなっている。OBや近隣の方々等地域の力を集める必要がある。
D 青木教育長	学校施設開放の事務を副校長がやっているが、事務でもできるのではないか。 国の動きで事務仕事の仕分けが始まっているが、学校事務の現状として、教員と事務職の分担がうまくいっていないことがある。
D	不審者対応のときに、事務職の方に話をしたところ、事務の仕事ではないとやってもらえなかった経緯がある。
B	学校に入って学校の中のことを色々やってくれる人を組織化するのが人材バンク。学校がサービス業として捉えられており、保護者からも要求が多くなっている。意識改革を行っていく必要があり、地域と密着した学校にするべき。
青木教育長	区から通知を出し、同時期に報道も重なったことで、保護者には概ね好意的に受け止められた。意識改革が進んだ面はあるが、家庭教育を学校が担っているような状況もある。
B	長時間労働を改めるには上の立場の人から見直していかないと進まない。副校長を増やすのはどうか。
D 青木教育長 渡邊校長	副担任がいるので副校長の補佐があってもいいのでは。 都も制度を考えている。 ある時期から学校がサービス業として見られるようになった。学校がサービス業のように、様々な要求が高まれば、教員は疲れてしまう。
B	「おやじの会」を作って先生方との飲み会を開いていた時期もあった。今は学校との距離が離れている。コミュニケーションは大事。
D	地域とのコミュニケーションは大事。小学校まではコミュニケーションがとれる環境があるが、中学校からは離れてしまう。
渡邊校長 薩田委員	みなとキャンプなども中学からは参加が少なくなってしまう。 親の立場としては、子どもたちにとって良くなるのであれば、なんでも手伝うので声をかけてほしいという気持ちがある。こちらから声掛けしても遠慮されてしまう。部活動のコーチ探し等も保護者として手伝いたいので先生からも保護者に声掛けをしてほしい。
A	教員の善意につけこんでいる教育委員会という面があるのではないか。色々な取り組みをもっと地域に周知すべき。

Bグループ

齋藤校長

働き方改革について、今年度着任して退勤時間が遅いので電気を消すから早く帰るよう指導したら、「ふざけないでください」と言われた。古くからある業務の仕方から抜け出せず、軽くない。

保護者や地域の方は、学校への理解が深く、クレームは少ない。教員が休めるよう、長期休暇や行事が少ない谷間の期間に休暇を取るよう指導しているが、それだけでは足りないのであれば、何かを捨てるしかないと思う。教員の志は高く、自ら学ぶ意識が高い。ICTによる事務の効率化など事務改善を図りたい。

学校支援地域本部について、今年度取組を開始し、ハロウィンの時期に学校の玄関装飾をしてもらったが、子どもが非常に喜んだ。18年ぶりに行った学芸会を見た際も舞台の背面の装飾もお手伝いできると声をかけていただいたり、遠足のお手伝いをお願いして、学校の活動を直接見てもらうこともでき、今後もさらに地域本部との関わりが広がると期待している。授業の面での活用も、今後の検討課題としたい。

宮崎園長

都の教育委員会から異動して今年度着任。これまでは調査回答業務を依頼する立場であったが、回答する立場に代わり忙しい。回答するにも調査内容を理解するのに時間がかかったりしている。学校の規模が小さくても行う業務は同様で大変である。長期閉校日の設定はありがたい。校務支援システムは今後改善していければいい。幼稚園は、子どもと向き合う時間を作るために、事前準備をしっかりと行わなければならない。より良い保育のためには、準備時間が足りない状況にある。外に出て学ぶこともさせたいが、少数規模の園では対応が厳しい。出産、育児、家庭で忙しい等、女性が多い職場特有の問題点があり、教員は仕事と家庭の両立が大変になっている。

小学校に関しては、教員は常に学ばなければならない、教材研究を深く行う必要があるが、自分だけの力では限界があるため、複数の教員で一緒に行ったり、研修に参加することが有益だが、その時間を確保することが厳しい状況にある。事務機器をひとつ入れるだけで、事務処理時間が短くなり、時間の捻出につながることもあるため、予算の関係はあるが要望していきたい。調査報告業務が何とか減らせないかというのが課題。

A

1日は24時間しかなく、ヨーロッパでは、プライベートの時間を13時間確保していると聞く。その考えでいけば、仕事の時間は、通勤時間等も含めて11時間となるわけで、その時間内で業務をどうするか考える必要がある。

複雑な報告書は、ICTを活用して、チェックリストで回答できるよう簡素化させたり、似たような調査はまとめるなどの工夫が必要。授業時間、事務時間、通勤時間など割り振った結果、時間が足りないなら、人やお金を導入するしかないと思う。リフレッシュの時間を確保してあげないと若い先生は特に大変だと思うし、学校はブラック企業より悪い。現状を聞いてびっくりした。

B

芝地区では、地域活動がたくさんある。学校だけではなく、子どもを地域活動に向かわせることができれば、教員の負担も減り、子どもも学校活動とは違う経験ができる。子どもは、地域活動で先生とは異なる大人との関わりや、学校以外の子ども同士のつながりができ良い経験ができる。地域活動に参加させる土壌はできているので、大人が仕掛けて子どもに経験させるより、子どもが仕掛けていく経験をさせる方が面白いと思う。子どもはもっと利用してほしいし、先生の時間も作れるのではと思う。

C

学校の先生の大変さを聞いて驚いている。何を縮減すればいいかとのことだが、親としては、授業や学習面はきちんと行っていただきたいと思う気持ちがある。クレームは少なくなっているとの話があったが、少し前はひどいクレームが多かったと聞いた。こんな遅い時間まで先生は学校にいるのかと、このままでは死んでしまうと心配している。遠足のボランティアなど保護者に呼びかけていただければ、お手伝いしたいと思う。

D	西新橋に居住しているが、子どもが少なく、学校との距離を近くに感じない。グラウンドや体育館を使用して、陸上教室を行っているが、通っている子どもを通じて、もっと体を動かしたいという欲求を感じている。学校の部活動はどうなっているのかと疑問に思っているが、教員の部活動指導が大変なら、地域の中でもっと子どもに運動させる機会を作ったらいいと思う。地域で子どもに運動させるためにはどうしたらいいか、何か良い案があれば。
田谷委員	中学校では、部活動があるが、教員が部活に専念すると学業面がおろそかになってしまう恐れもあり厳しい。学校で外部講師を考えていただけるか。順天堂大学の先生が水泳の記録会の際にサポートをしてくれている。
A	出前学習などで御成門小学校に何回か行っている。環境活動を行っており、東南アジアやアメリカでの活動実績もある。スポーツではないが、そういう面であれば、学校に協力できる。民間企業と連携して何かできないのか。JAL、マイクロソフト、グーグルなどでは、地方で講義を行う活動をしていると聞いている。
宮崎園長	スポーツの民間事業者との連携の話でいえば、中学校は可能かもしれないが、小学校は部活がないので難しいかもしれない。
A	報告書が多くて学校は大変との話があったが、民間の協力を得て、ICTを活用して基本の回答シートを作成し、簡略化することが必要だと思う。報告書の提出をやめてみたらどうか。
新宮次長	国や東京都の調査に関しては、非常にたくさんあるが報告しなければならない。区からも各学校に調査をかけているが、調査をする際は、極力簡単に回答ができるように事務局も配慮している。長時間労働が様々な手法で解消できたら、教員には、ぜひ自身のために時間を使ってほしいと願っている。今回地域の人材を活用し、教員の負担を減らす方法を教えていただいた。副校長はどこに連絡したら、協力してもらえるのかわからない場合もあるので、教えていただいたことは大きい。
山内委員	企業でいえば、毎月医師による面接指導を行わなければならないほど、教員は長時間労働をしている。私は、校長や副校長の業務を減らし、余裕のある時間を創出することが鍵であると思っている。教員の負担を軽減するため、地域や民間の人材をどの学年のどの時間に組み入れれば有効かを考えるのも、校長や副校長の役割である。そういったことを考える時間もないほど校長や副校長は忙しい。国や都への報告業務をどう減らすか、文科省や都にどう働きかけていくか。要望を言える港区になって良い。断る勇気も大切。宮崎校長は、東京都の教育委員会にいたとのことなので、ぜひ経験を活かして改善を図っていただければよいと思う。
A	国や都の調査は、一度回答を断ってみて様子を見ても良いのでは。国や都とは独立した区なので、言われたまま動かなくても良いのではないかなと思う。
新宮次長 齋藤校長	大雪の際の雪かきは、お父さんの協力や関わりはどうだったか。 学校の隣に長谷工があり、学校の方まで広い範囲を雪かきしていただいた。商店街の協力で通学路は雪かきされていて大変助かった。 地域と学校の協力関係は仕組みづくりが大切。今までは、地域の協力を得る方法を学校が考えなければと思っていたが、地域が考えてくれたものに、どう学校がかかわるかを今後は考えていきたい。
A	子どもは大切にしなければならない。うちのマンションは3,000人が居住していて、民生委員になった人がいたり、神明のいきいきプラザで子どもの面倒を見たり積極的に活動している。普段から学校とも付き合いがあれば、もっと協力できると思う。
D	今回の地区教育会議は、区の協働推進課を通じて開催を知った。もっと区が地域をうまく使って活動する方法を考えてほしい。もっと協力できるのにとどかしい気持ちになる。
金田課長	区と地域の人や団体をどうマッチングさせ活かしていくのかは、課題と認識している。
B	幼稚園、小・中学校が協力してほしいと思っていることが、情報の提供がないので協力したくてもわかりにくい。

2 麻布地区教育会議

テーマ：地域で支える学校運営 ～教員が子どもと向き合う時間の充実に向けて～	
実施日時	平成30年2月7日（水） 午後6時から午後8時まで
実施場所	麻布地区総合支所 3階会議室
出席者	公募区民等（敬称略・五十音順）：入江誠、宇野宏、及川廣子、小野澤うばら、加生武秀、加生美佐保、川上利春、久保信、近藤敏康、唯是一寿 教育長：青木康平教育長 教育委員：小島洋祐教育長職務代理者、山内慶太委員、田谷克裕委員、薩田知子委員 学校（園）長：大島美知代麻布幼稚園長、羽田野庸史東町小学校長、石原嘉人六本木中学校長 区職員：新宮弘章教育委員会事務局次長、堀二三雄麻布地区総合支所長
事務局	中島博子庶務課長、藤原仙昌教育政策担当課長、山本隆司学務課長、瀧澤真一学校施設整備担当課長、増田玲子生涯学習推進課長、佐々木貴浩図書・文化財課長、松田芳明指導室長、鈴木健麻布地区総合支所協働推進課長 庶務課庶務係（佐京良江係長、中村直人、兵藤淳、永田よし子）、麻布地区総合支所協働推進課（駒井加奈子地区政策担当係長）
議事次第	1 開会 2 小島洋祐教育長職務代理者挨拶 3 出席者紹介 4 テーマに関する説明及び報告 （1）地区教育会議及びテーマについて 中島博子 庶務課長 （2）「学校支援地域本部事業」について 増田玲子 生涯学習推進課長 （3）「部活動外部指導員」について 松田芳明 指導室長 5 グループディスカッション 6 結びの挨拶 青木康平教育長 7 閉会
グループディスカッションでの主な意見（要旨）	
Aグループ	
羽田野校長	先ほどの資料で説明のあった通りの状況。土日に来ている教員もいる。放課後も仕事をしていると、保護者から電話があり、ご意見を頂くこともある。
A	資料2 東京都集計を見ると副校長先生の勤務時間が長い。自分の経験からも、小学校や特別支援学校では副校長先生の勤務時間は確かに長い。また、地域の人からは副校長ブランドのようなものがあり、何かあれば副校長にという流れがある。サポートとして副校長の仕事に人を付けるのはいいと思うが、地域の人を納得させるのは難しいかもしれない。特に小学校ではその傾向が強い。
B	その通りだと思う。地域の人でも学校の先生がそれぞれどういった役割担っているかは分からないので、副校長に話がいくのは必然。
C	2年間港区の小学校にいたが、副校長の任務が多すぎる。生徒の問題だけではなく、教職員同士の問題も扱っている。要は何でも屋になっている。誰かサポートを入れるにしても、事務的なことしか手伝えないだろう。学校に要求をしている保護者も副校長からの回答を期待しているので、対外的なことは副校長が受け持つことになる。
羽田野校長	副校長の補佐で非常勤職員がいるが、事務的な作業をやらせてもらっている。
C	大学事務でも事務量が増えている。なぜこれほどまでに各種報告等が増えてしまったのかは疑問。
D	現状、学校の中で時間に余裕のある人は事務職員。調査報告については、そういった人に聞き取りをしてもらい取りまとめることはできないか。地域から学校への問

	<p>合せについては、学校というのはこういうものだということがわかっていない人が多くなっている。ボランティアを募集することなど地域に周知していく必要はある。中学で非常勤をやったときに言われたことが、生徒を教えることよりPTAを御することが難しい。PTAと地域をうまくコーディネートし、地域に取り込んでいくような仕組みが必要。</p>
C	
E	<p>麻布地区の地域事業の中で関係があるのはサマースクール。学校主体でやっている地域事業と地域主体で行っている事業で、関係のあるようなものは連携したり、整理したほうがいいかもしれない。</p> <p>資料1の7ページに「学校経営」という単語があるが、このような言い方はあるのか。</p>
松田室長	<p>文科省でも使っている言葉。</p>
A	<p>教員の平日業務時間について、特別支援学校の食事介助などの給食従事についてはどういう分類になっているのか。</p>
松田室長	<p>都は業務時間の対象としていない。</p>
青木教育長	<p>先ほどの意見の通りで、地域では様々なイベントがあり、その整理は必要。また、事務職員については課題としてあり、事務職がやる業務が整理されておらず、その分が副校長や教員に仕事のしわ寄せがいつている部分もある。東京都でもそれぞれの仕事の仕分け作業を始めており、事務職が本来やるべき仕事の整理が進んでいる。</p>
D	<p>事務職の仕事の精査は重要。</p>
B	<p>今は学校選択制で、人が流入・流出しており地域が崩壊している。地域の子どもの顔が見えづらくなっており、つながりができない。PTA会長など昔から地域にいた人ではない人も増えてきている。</p>
C	<p>昔は地域の商店に子どもを連れて行き全部の店に挨拶をした。そういった商店の方に声掛けして協力してもらうのはどうか。</p>
B	<p>町会に関わる方も高齢化しており、町会と学校とのつながりが薄い。</p>
A	<p>放課後の居場所について、部活動を学校から切り離れた方がいいかという調査があり、教員は半数が反対し、地域は8割ほどが反対だった。</p> <p>学校という場所を使って、放課後サークルのようなものを作り、部活動を切り離すのはどうか。子どもたちにとっても選択の幅が増える。</p>
B	<p>中学校のクラブを作ろうとしても作れない。今は指導者が見つからない。月謝を5、6万円をとるなら人も見つかるだろうが、それは方向性が違う。</p> <p>部活動で一番大変なのは土日の子どもの引率。</p>
青木教育長	<p>今後の外部指導員の導入でその緩和はできる。</p>
B	<p>責任の所在をどうするかという課題はあるが、色々な人を関わらせるのは大事。</p>
青木教育長	<p>個人やグループをコーディネートしていく人材バンクのような組織を作ることも必要。</p>
E	<p>麻布にも地域事業のプログラムは様々ある。そういった人たちのつながりをリスト化できればという話も毎年出ている。地域全体で仕組みを作ることができればよい。</p>
D	<p>学校から、部活動についてお願いしますという丸投げで呼びかけはあるが、それではマッチングしづらい。やりたい人はたくさんいるのでコーディネートの枠組みさえあればいい。中学校の部活であれば派遣できるかもしれない。</p>
B	<p>マネージャーのような存在は必要。</p>
A	<p>学校支援地域本部のデータをPCで可視化できないか、もしできれば部活動への応用も可能。また、シルバー人材の活用法にはどういったものがあるか。</p>
増田課長	<p>現状は紙資料での情報だが、データ化することは検討している。</p> <p>シルバー人材の活用については、施設開放や登下校時の誘導、鍵の管理等を行っている。</p>
C	<p>支援はいいと思うが、教わる子どもたちとしては、毎回講師の顔が変わるのはどうかと思う。</p>

青木教育長 D A	子どもはワクワクする子も多い。部活も継続して教えていただければ。経験を積みば大丈夫とは思いますが、研修等があればより良い。
羽田野校長 堀支所長	先生に協力してもらい、どんなことを手伝ってもらえるかヒアリングして集約する。資料5の学校支援地域本部はいいシステムだと思う。地域の代表者をメンバーに組み込むなど地域に精通している人がいると、ボランティアの呼びかけなども強力に行える。 また、資料3の報告書作成業務については国や都、区での調査を整理していくことが必要。
山内委員	子どものために何が大切かという視点が必要。クラブ活動には、生徒と教員のつながりを作り、教員が生徒の教室では見えなかった良さを発見する場でもある。また、外部講師も教員より話が面白いというだけになってはいけない。担任の先生の信頼を高めながら、一部を外部指導員にお願いするなど方法を考える必要がある。
薩田委員	PTAの役員になってくれる人は少なくなっている。時間のない中でも、協力してくれる人はたくさんいる。学校でもそういった地域の力を意識してほしいし、もっと声をかけてほしい。
Bグループ	
石原校長	学校現場は問題が山積み。各先生には子どもの前ではいきいきと明るい姿を見せなくてはならないと言ってきた。メンタルでダウンする先生が複数人いる。先生は休みたいときに休まず、ダウンする先生は、他の先生に迷惑をかけるので休めない、仕事を持ち帰ってできないので帰れないと言っている。子どもが学校にいるうちは子どもと向き合い過ぎるため、授業の準備や採点業務、保護者向けの通知作成は子どもが帰ってから行っている。部活があると業務に取り掛かるのはその後になる。そのため12時間勤務となってしまう。部活動指導員の活用は、教員の負担軽減につながるの期待しているが、一方で、先生も初めて経験する部活動で、子どもと一緒にやることで得られる経験や発見があると思っており、部活動の指導をしなくていいのか、欧米のように授業だけを行うという体制には疑問がある。日本に合ったやり方を見失うことのないよう、考えなければならない。港区の働き方改革には、本気でやるんだという期待をもっている。時間の圧縮、内容の精査など地域の協力を得て進めていきたい。
大島園長	石原校長と同じ気持ち。教員は子どもが好きで、子どものことを考え、常に働いている。園児は通常午後2時には帰宅させるが、安全な環境整備の観点から保育室の掃除は担任にするようにさせており、保育室の掃除や安全管理、教材の準備や職員会議、午後4時半までの預かり保育の補助対応、学級の事務処理などを幼児の降園以降の午後2時以降に行っている。個々の業務がある中で、全体で行う幼稚園の整備や安全点検、避難訓練や行事の打ち合わせ等の会議などがあると、クラスの教材研究は時間外に行うことになってしまう。小・中学校に比べて、事務量は少ないのかも知れないが、保護者対応や特別な支援が必要な園児の対応に時間が非常にかかっており、計画的に行える業務ではないので時間が定時を過ぎてしまうのが課題となっている。
A	教員が休みたいのに休めないという話があったが、学校は勉強だけをする場ではなく、人間形成を行う場であり、教員は子どもが接する大人の中で大部分を占めている。将来どうなりたいか、どういう大人になりたいかを考えさせる場なのだから、子どものいろんな面を引き出してくれる教員でいることが大事だと思う。自分の子どもの時には、勉強以外の魅力的な話をしてくれた先生がいた。ただ、教員が全部やろうとすると、時間が足りないということだろうが、本来業務である勉強も授業時間の増、土曜授業、小中一貫教育などで増えすぎているのではないかと。そんなに

	あれもこれもできるのかと疑問がある。地域に協力を頼む前に、学校が無理に増やした業務を減らしたほうがいい。学校選択制は、地域と学校のつながりが無くなるのでやめた方がいい。
小島委員	今回のテーマは、学校の先生が魅力あるいきいきとした先生でいるために負担をどうしたらいいかということ。
A	学校の先生が忙しいというのは、反面、子どもも忙しいということ。学校が終わった後も塾に行ったり忙しい。学校と親がもっと話し合うべき。
B	授業を行うことは、教員の本来の仕事だが、教員が手放せる仕事とはどんなものがあるのか。教員免許のいない授業を行っているのをネットで見たことがあるが、休んでしまった先生の代わりになれるのか。生徒に興味を持ってもらえるような楽しい話をするには、要望があれば協力できる。
石原校長	授業を地域の方が代わりに行うことは免許がないとできない。放課後の補習については、お任せできるし、基礎学力の向上にもつながる。大学生に頼むことができれば生徒も喜ぶと思うが、大学生も忙しく協力を頼めない状況。
C	学校で事務として働いていたのでその経験から話すと、保護者は休まない先生の方がいいと言っていた。休んでしまった教員の代わりに校長や教頭が生徒の前に立っていたが、教頭や校長も子どもが好きだから、喜んで授業をしていたし、生徒も喜んでいて。個性のある先生は生徒にすごく人気があり、好かれていた。港区の学校は素晴らしいと思っているが、先生はそれだけ大変なんだろうと思った。昔は、長期休暇の時は海外旅行に行って、休み明けはその話を生徒にしたりとゆとりがあった。
大島園長	幼稚園の業務で頼める業務としては、語学が堪能な方に、外国人保護者への対応補助をお願いしたい。また、園芸ボランティアや食育アドバイスや手作りの教材作りなどをしていただける業務、例えば梅を収穫した際のジャムの作り方、お裁縫や演芸など、若い保護者や教員が知らないことをアドバイザーとしてお手伝いしていただきたい。
D	英語が堪能な方が学校の役に立ちたいと申し出たが、かなわなかったことがあった。私も教員免許はないが、家政科の学校を出ているので、ぜひ役に立ちたいと思うけれども、どこにも募集していないので、せつかくの自分の知識を生かせず残念。もっと募集をPRしてほしい。
田谷委員	学校支援コーディネーターの説明があったが、出前授業の派遣や職場体験の受け入れなどを行っている。私の実家も町工場を見せてほしいと要望があり協力した。学校地域支援本部にご連絡をいただくと、学校が人材を活用できる。ぜひ連絡してほしい。
A	地元の学校は、商店ばかりを見に行き、町工場に来ない。先生が地元で町工場があることを知らないのではないかと。最近では家庭訪問が無くなったから、地域を知らないのでは。
田谷委員	教員は、保護者とのやりとりから地域の情報は得ている。地域の特性に応じて見学場所を決めているのではないと思う。
A	地域とつながりを持つというが、同じ地域に住んでいる子が、学校選択制により別の地域の学校に通学したり、私立学校に通学しているため、近所の子も同士のつながりがなく、保護者同士も疎遠になっている。仕方がないと開き直っているような気がするし、お祭りに子どもが集まらず、さみしくなっている。
D	学校だけがつながりの場ではないと思う。お祭りは、行けば楽しいとかお菓子がもらえるとかで子どもが集まり、盛り上がる方法を考えればいいと思う。
E	街歩きを芝地区でやっている。芝公園を親子で歩く2時間のコースを企画したところ、15組が参加した。こういったイベントに親が積極的に参加すると、子どもも興味を持ち、学校が違って別につながりができると思う。
小島委員	学校支援地域本部の話もあったが、特に増えている副校長の負担をどのように減らすことができるか、意見をいただきたい。

D	防災協議会で餅つき大会を行ったところ、いろいろな人が集まり話が広がった。学校も外部の人が入りやすい仕組みを作るといいと思う。
小島委員	先ほど学校で事務をされていたという話があったが、学校の先生がやらなくてもいいと思うような仕事はあったか。
C	役所に提出する書類作成を教頭先生と夜12時くらいまで残業してやったこともあったが、基本的に先生は、生徒のためにオリジナルの良い教材を作成していたり、これは人に任せられない譲れない仕事だと思って、長時間勤務しているのだと思っていた。
A	国と都で同じような調査を行っている。こういったことが無駄で、現場の負担になっているのではないか。

3 赤坂地区教育会議

テーマ：地域で支える学校運営 ～教員が子どもと向き合う時間の充実に向けて～	
実施日時	平成30年1月19日（金） 午後6時から午後8時まで
実施場所	赤坂地区総合支所 2階会議室
出席者	公募区民等（敬称略・五十音順）：出野泰正、神谷浩史、岸直樹、キャロル利子、近藤里奈、立花清子、橋本聖子、三橋加代子、山部剣司、横田尚彦 教育長：青木康平教育長 教育委員：小島洋祐教育長職務代理者、山内慶太委員、田谷克裕委員 学校（園）長：後藤由美子中之町幼稚園長、曾根節子赤坂小学校長、高松政則赤坂中学校長 区職員：新宮弘章教育委員会事務局次長、森信二赤坂地区総合支所長
事務局	中島博子庶務課長、藤原仙昌教育政策担当課長、山本隆司学務課長、瀧澤真一学校施設整備担当課長、増田玲子生涯学習推進課長、佐々木貴浩図書・文化財課長、松田芳明指導室長、山田吉和赤坂地区総合支所協働推進課長 庶務課庶務係（佐京良江係長、中村直人、兵藤淳、松崎圭代）、赤坂地区総合支所協働推進課（山本昇地区政策担当係長、谷口健太郎）
議事次第	1 開会 2 青木康平教育長挨拶 3 出席者紹介 4 テーマに関する説明及び報告 （1）地区教育会議及びテーマについて 中島博子 庶務課長 （2）「学校支援地域本部事業」について 増田玲子 生涯学習推進課長 （3）「部活動外部指導員」について 松田芳明 指導室長 5 グループディスカッション 6 結びの挨拶 小島洋祐教育長職務代理者 7 閉会
グループディスカッションでの主な意見（要旨）	
Aグループ	
曾根校長	7月に保護者に通知を出して、夏休み中は定時に帰る、水曜日をノー残業デーにするなどの取組をしている。自分なりに働き方改革をし、遅くとも8時には帰るようになった。夏休み中は実行できたが、土曜日の振り替えや年休もなかなか取ることは難しく、夏休みにまとめて取るような状況。9月にも通知をしたが、PTAから協力しなさいと言っていた。夜に電話がかかってくることもあるため、留守番電話を設置し、教員には教材研究をやってもらえると良い。
後藤園長	幼稚園も夏休みはまとまって休むことができたが、週一回のノー残業などは夏休み以外難しい。手紙を出したことで職員の意識も高まったが、行事等があると遅くなりがちで、実施することはなかなか難しい。女性ばかりの職場だが、何を削減できるのかはこれから考えていく必要がある。
A	調査結果で保護者対応は5位だが、肌感覚としてはPTA保護者対応が一番重いと感じる。学校が地域のコンビニ化している。17時にはシャットアウトし、夜はコールセンターとしないといけないと思う。学校はアポなし訪問も多く、職員室に勝手に入ってくる人もいる。受付機能の強化が急務。自分の仕事をできる環境を区が整えることが必要。クレームはPTAでも止められない。
B	副校長を2名体制にすることはできないか。外部対応と内部対応で分ける。初めて副校長になると、頼る人がおらず、これまでと全然違う仕事をしなくてはならない。
青木教育長	副校長の役割は明文化されていて、経営補助や人材育成。実際は事務作業に忙殺され、本来業務ができない状況がある。
松田室長	管理職になるような人材がいない。杉並区は副校長2名体制を導入している。

A	副校長2名体制は難しく、事務員の拡大が現実的。副校長がやることではないことをやっている。
C	副校長の仕事を手伝いたいと思うことはよくある。PTA執行部でも副校長の秘書が必要という話が出ている。
青木教育長	施設開放業務を委託したり、留守番電話の導入、都がモデル的に取り組むサポーターの活用等を考えている。授業の後、教員同士が話し合ったり、次の準備をする時間の確保が必要。
曾根校長	他の自治体でも臨時職員等を雇い、雑務をやっているケースがあり、人的支援はありがたい。施設開放業務もトラブルがあるとシルバー人材センターの職員では止められず、どうしても職員室対応となってしまう。放課後、教員が何をやっているか、保護者にも理解してもらうことが必要。
青木教育長	7月の通知はまさに地域の理解を得ることを目的に行った。視察をした京都でも地域事情があり、温度差もある。赤坂地域としての特色は何か。
森支所長	地域としてのまとまりが強く、教育にも関心が高い。また、PTAや地区委員会等、熱い気持ちを持っている地域。アカデミーがしっかりしていて、幼小中の連携も取れている。共育事業で文化・スポーツ事業を学校の動きに合わせて行っている。
A	地域コーディネーターが教員の負担軽減になっているかは疑問がある。子どもにとってはいいが、準備等も含めると教員の負担が逆に増えていないか。
曾根校長	講師の派遣等によく使っていて、ありがたいと思っているが、準備や打ち合わせ等で、教員の負担になっている部分は確かにある。
A	発想は素晴らしいが、教員が受け止めては、どうしても負担になってしまう。
青木教育長	学校支援地域本部は教育委員会事務局に本部があるが、地域コーディネーターは学校にいたので、調整もある程度やってもらえる。
A	コーディネーターはフットワークが軽くないとうまく活用できない。教員のOBだと手足として動いてもらう際も、年上だしお願いしづらいのではないか。
松田室長	他区の校長時代にコミュニティ・スクール等も行ってた。初期は大変だが、うまく回り出すとかなり負担の軽減につながる。教員は異動があるが、コーディネーターが残っていれば、新しく来た教員も調整をしやすくなる。
C	報道等でも取り上げられている中だったので、通知は保護者の中でも話題になった。ただ、20時まではいいんだという意見が出たり、通知のことを知らない教員もいた。
	問合せについては、親同士でつながりができていれば、学校に電話しなくてもお互いに聞くことで対応できる。PTAとしても保護者と教員が親しくなればと思っている。
B	地域で手伝えることとしては、花壇の手入れや炭起こしなどを行っている。テストの丸付けは子どもの習熟度を把握するために教員が行った方が良いと思う。ボランティアで手伝う場合は、怪我など責任問題になったりしないか不安がある。
	子ども向けの事業をやっているが、子どもたちも最近では疲れている。先生も忙しくて、一人ひとりと触れ合う時間がなかなか取れないと思うが、特に低学年のうちは触れ合えれば良いと思う。
	教員の事務の中には保護者がやってはいけないものもある。保護者の中には知り合いが学校にしかいなくて、教員に直接連絡をしてしまう人もいる。留守番電話で業後の問合せを止めることも負担軽減につながると思う。
中島課長	留守番電を検討する中で、どういった問合せ内容が多いかも調査したが、「明日の持ち物は何か」という問合せが一番多いということだった。そういった内容は、保護者同士のコミュニティがあれば解決できる内容だと思う。
曾根校長	学校では、土曜日や日曜日に様々な団体がイベントを実施している。区や総合支所、地区委員会などが実施し、土日のイベントが増えている。大変ありがたいことだが、教員がすべてのイベントに出ることは難しい。管理職はすべてのイベントに出ているが、一般の教員については、順番を決めて出るようにしている。教員がイベント

<p>D</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>青木教育長</p>	<p>に出こないことを責めずに、理解してほしい。</p> <p>地域としてもイベントに教員が出てきてくれるのはありがたいが、そこは家庭優先でいいと思う。</p> <p>中学校の部活について、周年行事等に呼ばれるのは部活の先生。地域人材が部活を行うことで、そういったつながりがなくなってしまうのも微妙。校長の意向もあると思うが、外部委託も難しい。</p> <p>部活も含めて考え方の変更が必要。土曜日授業もいるのか。長期の休みを減らして、土日を休みにするといった調整はできないものか。</p> <p>自分もそう思う。せめて土曜日授業を午後までやることで月に1回として、残りの土日は休みにできたら良い。教員も各家庭も、家族との時間をもっと作ってほしい。教員の働き方改革に係る東京都のプラン検討メンバーになっているが、これまでと大胆に変えていかなくてはいけないと発言した。既成概念を外さないと変えられない。</p>
<p>E</p> <p>山内委員</p>	<p>幼稚園は手紙をもらってから、より先生に配慮している。連絡事項も先生は1回しか言わないことになっており、遅れてきたら他の人に聞くことになっている。先生からもはっきりと言われているし、保護者としても言ってもらった方が助かる。保護者にとってもメリットがあった。</p> <p>子どもとの充実した時間を取るためには、いい意味での暇がないといけない。私立学校は5～600人の規模であれば、6、7人は事務職員がいるが、区立では少ない。区立は役所の中に多数の事務スタッフがいる形だが、学校と役所の間での連携と事務の配分が課題。</p> <p>また、家庭と学校と地域の役割をどう分担するか、緩めた方がいい境界もあるが、必要な境界もある。</p> <p>個人的には教員は夏休みにもっと連続して休めたら良いと思う。その間に見聞を広げ、それがまた子どもたちとの関係の中で活きたらよい。</p>
<p>Bグループ</p>	
<p>高松校長</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>新宮次長</p> <p>C</p>	<p>学校は落ち着いているが、教員の多忙に変化はない。放課後15時30分から休憩を取る設定だが、生徒対応、翌日の準備で21～22時まで休めないし、授業の空き時間も提出物チェック等に費やしている。報告書作成等の事務作業がもっと簡単になれば余裕ができると思う。</p> <p>赤坂地区は地域の方々が子どもをよく見てくださり、それが現在の学校の安定に繋がっている。お祭りや地域の集まりで子どもたちが人との関わりを教わる。</p> <p>働き方改革については、港区は色々取り組んでくれている。もっと効率的になると大変助かる。本会議のテーマにしてもらえ、チャンスだと思っている。</p> <p>教員の忙しさは20年前から話題になっているが、より忙しくなっているようだ。PTAや地域の対応、地域行事への出席も負担だと思う。</p> <p>中学校は20年前は学区域制で、最近希望選択制だが、部活動について特化し、その中学に進んでもいいのでは。</p> <p>報告書等については行政と学校で連携して進めてほしい。</p> <p>仕事は作業人数で負荷が違うが、先生を1人増やすと負荷は減るのか。</p> <p>コピー等手伝う人がいるといい、と先生方からよく言われる。先生が増えれば教育は充実する。事務と分離して先生には教育に特化してもらえれば、と思っている。</p> <p>事務処理は大変。転校手続、教材発注、授業準備のサポーターがいればいいのか。海外ではカフェテリアに担当がいて、先生は外にランチに行く。何でも先生の仕事と思いたまわないで、分離して解放してあげたい。精神を病んでいる先生が非常に多いと聞くが、それは子どもにとって不幸で親にとっても不安。先生にいつも余裕がないと子どもも先生に声をかけづらい。</p> <p>学校の統廃合で東京都でも半減だそうだが、1学年1クラスは子どもにとっても良</p>

	<p>くないので、3クラス程度で統廃合を進め、遠くなる子どもにはスクールバスを出す等の対応を。ボランティアにばかり頼るのはよくない。学校数が2から1になれば事務負担も減るのではないか。</p>
新宮次長	<p>1クラスの学校については確認するが、港区は子どもが増えているので、現状廃校はない。先生の仕事について、登下校の見守りや清掃は分けている。事務が減ってもその分は子どもと向き合う時間となるので、勤務時間は短くならない。先生が余暇を自分のために使うことが、より良い教育へと繋がると考える。</p>
田谷委員	<p>白金の丘は3年前に統合で4クラス100人超、先程の意見のとおりにはなっている。子どもが多く、先生方の苦勞が多いかと思う。 区内はスクールバスを出すほどの距離はないと考えている。 部活動の特化は、よい先生がいてこそで、異動でその火が消えてしまう。指導員としてぜひ地域の方に協力していただきたい。</p>
A 事務局 瀧澤課長 小島委員	<p>小中一貫校では事務量は減るのか。 小・中学校と事務は同じだが、交流があるので授業の計画が立てやすくなった。 港区では青山小が単クラスとなっている。 義務教育の質を高めることが教育委員会の責務。ソフト・ハード両面で子どもたちにより良いものを。先生が子どもと向き合うことに専念するためにどうするか。時間外に指導員を依頼したりICTを導入したり工夫をしているが、保護者・地域の人にも助けてほしい。</p>
B	<p>学校評議員制度や学校支援地域本部が少しずつ充実してきている。視察に行った京都ではもう少し幅を広げた協力もあり、港区もいずれは、という研究をしている。 昔と比べ、先生がやらなくていいことは増えているのか。忙しきの質が変化し、地域が手伝える余地があるならやり方を考えるべき。「教育」は時間を使うべき部分。どこを削減できるのか。昔はどうだったのか。</p>
高松校長 C	<p>何でも学校がやっていて、今も変わらない。 1人の先生がPC、英語と何でもやるので忙しい。その分野に長けた人がサポートに入って子どもを見る等が必要では。</p>
高松校長 C	<p>教員免許が無いと子どもを教えるはいけないし、教育を理解していないと授業準備も難しい。オーストラリアでは教員は15時位に帰ってしまうと聞いた。</p>
高松校長 C	<p>20時退勤、水曜定時退勤等決めてしまうと、家に持ち帰ることになるのではないか。退勤時間は目標的なもので意識づけ。個人情報を持ち帰れない。港区は自宅PCで仕事ができるような取組を模索している。</p>
高松校長 小島委員 高松校長 D	<p>教員数を増やし、先生の空き時間を作ってあげたい。文科省がダメと言うのか。文科省はOKでも、財務省がダメ出しをしている。文科省はよく取り組んでいる。港区は区費講師を採用したりしている。 港区はICTもよく取り組んでくれていて、指導員の派遣も区費でやっている。</p>
E	<p>中学生の子どもの欠席連絡は電話だが、先生は朝早くから出勤し対応している。ボランティアに頼るばかりではなく、長時間学校に居て子どもが関係者と認識できるスタッフを置いて欲しい。先生方も心のケアが大事。 小学校は子どもたちをよく見ていてもらわないとトラブルに気がつかない。大人が目が多くあることは学校の安全面でも重要。教育は先生にお任せ、との考えから頻りに学校に行くことはなかったが、イベントに参加した時に地域の人も学校に関わるといいなと思った。現場の先生が求めるものを汲み上げることが必要だと思う。 地域で学校を支える人をどう増やすかが大切。イキメン（地域で生き生き活躍するメンズ）を増やし、学校に関心を持ち、親が繋がると子どものトラブルも良い方向で解決する。親がどれだけサポートするか、赤坂を好きになるかが大切。親ゼミ、おやじゼミ等、父親の横のつながりを作り、地域の力になりたい。 部活動の指導員も、外部の人をつけるのが全てではないが、良い取組。 学校運営評議員会は学校にプラスになっているか疑問。コミュニティ・スクールがいいとは思えない。学校運営は校長にしっかりやってもらいたい。</p>

田谷委員	今の意見に同感である。最近は父親が子どものことをやるようになった。おやじ会は容易に人が集まったのか。
E 田谷委員	運動会の手伝い後の飲み会からスタートした。面白い企画をやろう、という感じ。今後もぜひ継続を。 評議会のように相互通行の形がコミュニティ・スクールで、先生が評議員に説明する義務ができる。そこがいいから評議会制度は続けてほしい。 おやじの会は小・中で交流できているのか。また、お勤めのお父さんの参加はどうか。
E 小島委員	小・中で父親の関わり方が違う。勤めの方は、平日は難しい。 京都視察に行ってきた。コミュニティ・スクールは概念が分かりづらく良い印象がなかったが、実態は校長の運営力にかかっており、一緒に学校を運営していくために地域は何をやるか、という考え方。地域が校長と対等に、何をやるか考えていくから積極的になる。校長の力量によるところが大きい。
E 高松校長	評議員会は双方で意見を出し合いたいというのが本音。 評議員会は遠慮されているのか本音が言えていない方が多いのではと思う。コミュニティ・スクールは賛否あるが、校長の右腕となってくれるような人が入りやすいかもしれない。自分ならやってみたい。地域の方は自分の子どもを責任を持って育てていかないといけないと思う。教員経験のみの自分たちと違う視点の意見が欲しい。
小島委員	新たな制度を創ると人材が分散するため、学校評議員は学校運営評議会に吸収されるかもしれないと思っている。
新宮次長	おやじの会のような活動と評議員制度をあわせたものがコミュニティ・スクールではないか。双方で意見を出し合うことが重要なのだと思う。
小島委員	コミュニティ・スクールは、先生と一緒にあって、というもの。積極的に考えていかなければならない。
高松校長	おやじの会は赤坂だからできたことだと思う。小・中が一緒にできるようになるといい。
A	子育て支援は国の政策であり、港区も良くやっている。親の負担が減り、学童保育もほぼ受け入れられているが、先生の負担が減っていない。地域でどう支えられるか、学校に地域の応援団が沢山いるということで負担軽減につながればいいと思う。

4 高輪地区教育会議

テーマ：地域で支える学校運営 ～教員が子どもと向き合う時間の充実に向けて～	
実施日時	平成30年2月5日（月） 午後6時から午後8時まで
実施場所	高輪地区総合支所 高輪区民センター
出席者	公募区民等（敬称略・五十音順）：磯田哲治、岩村道子、金谷毅、斉藤秀朋、高頭亮、庭野文子、原佐江子、福島隆、矢澤裕 教育長：青木康平教育長 教育委員：小島洋祐教育長職務代理人、田谷克裕委員、薩田知子委員 学校（園）長：柿沼敦子高輪幼稚園長、篠原敦子高輪台小学校長、鈕持利行高松中学校長 区職員：新宮弘章教育委員会事務局次長、野澤靖弘高輪地区総合支所長
事務局	中島博子庶務課長、藤原仙昌教育政策担当課長、山本隆司学務課長、瀧澤真一学校施設整備担当課長、増田玲子生涯学習推進課長、佐々木貴浩図書・文化財課長、松田芳明指導室長、大澤鉄也高輪地区総合支所協働推進課長 庶務課庶務係（佐京良江係長、中村直人、兵藤淳、細川安澄）
議事次第	1 開会 2 青木康平教育長挨拶 3 出席者紹介 4 テーマに関する説明及び報告 （1）地区教育会議及びテーマについて 中島博子 庶務課長 （2）「学校支援地域本部事業」について 増田玲子 生涯学習推進課長 （3）「部活動外部指導員」について 松田芳明 指導室長 5 グループディスカッション 6 結びの挨拶 小島洋祐教育長職務代理人 7 閉会
グループディスカッションでの主な意見（要旨）	
Aグループ	
篠原校長	今は仕事が家に持ち帰れず、学校の中でしかできないので、学校に残ってやらざるを得ない状況。遅くとも20時には帰るよう伝えているが、仕事に追われて帰れないことが多い。メリハリが大事で、バランスをどうとっていくのが今後の課題。教員の意識も少しずつ変わってきている。
A	質問事項を紙に書いてきた。教育委員会とは何か、職員は何人いるのか。
中島課長	学校の運営支援としては職員が約120名。
A	自分の時代は学校全体で8クラス2,000人おり、教員は50～60人いた。
篠原校長	正規教員は25名で子供に関わる様々な職種を含めると、全部で約50名位。
A	残業が続くようであれば、教員に指導し何をやっているか確認し、民間の企業であれば仕事をはしょったりする。資料では、区がどう具体的に対応したか読み取れない。また、統計資料は国や都、区で同じような資料を作っているが時間の無駄。
B	地域性を確かめるために地域ごとの調査は大事。確かに報告書は時間がかかったりするが、文字起こしなど業者に委託できるものはお願いすれば業務量は減らせるのではないか。
青木教育長	教員が本来やるべき業務とそうでない業務について、国がその仕訳をしており、教員の時間を確保する動きを始めている。放課GO→も最初は地域主体だったが委託に変わっている。
	地域の力を借りて学校を支援することが最近になってまた求められているが、これまで学校の支援をしていただいた事例があれば教えてほしい。
B	学校の受付や清掃、スポーツ指導などを手伝っていた。
C	高輪台でのスポーツ指導や、スポーカル、中高生プラザ等でボランティアの指導を

	行っている。学校の卒業生からもアルバイトを紹介してほしいなど色々な相談があり、地域とのつながりができている。
青木教育長 D	学校外にもう一人先生がいるようなもの。 学校の先生が忙しいのは事務書類の仕事が大きい。それをもっと効率化できたらいい。
青木教育長	本村小で病気で休んだ方が復帰し、そのならし期間中に事務仕事中心に手伝いを行っていたが、周りの先生方はずいぶん楽になったと聞いている。スクールサポートスタッフ等を活用し、負担軽減を図ったり、チャレンジコミュニティ大学の卒業生も活用できるのではと他地区でも話が出た。
野澤支所長	チャレンジコミュニティ大学を卒業してからの活動が大事だが、支所では運営に90%の力を使っており、残り10%で卒業後のサポートをしているのが現状。様々な人材がいるので、これからは卒業後のサポートもできるような体制にしていけないといけないと思っている。
D	学校を超えると横のつながりがなかなかない。
青木教育長	学校も知っている範囲にしか声をかけることができない。だが、地域にはたくさん人材がおり、人材バンクのような体制を整備していかなければならない。個人ごとの時間の空きをうまくコーディネートさせる必要がある。
B	今の教員は英語授業やパソコンなどやることが多い。
C	国や都、区がそれぞれ別に調査している。まとめることはできないか。
青木教育長	調査のやり方は工夫する必要がある。
C	子どもころは父親が働き、母親が家にいた。今は共働きが増え、PTAを決める際も大変になっている。
E	中学校のように小学校の授業も専門家に任せるのはどうか。
篠原校長	先生にも得意分野がありそれに特化したいのでは。 教員は教えるプロであり、授業に向けて、教材研究もして、しっかりと力を注ぎたい。そのために、地域の手も借りて時間を確保したい。
A	高校卒業後、教育に興味はなかったが、自分は電気関係の仕事をしていたので、ボランティアとして学校の授業でその経験を話すことはできるかもしれない。
青木教育長	生徒も興味を持って聞いてくれるのでは。
篠原校長	そう思う。
A	授業にはマニュアルがあり、それに則って授業をすればいいと思っていたが、なかなか難しいということがわかった。先生はまじめだと思う。
C	イレギュラーに新しく何かが入った時に、教員の負担がそのまま増える。 AIロボットのペッパーの導入等がその例。人も一緒に来ればいいのだが。
篠原校長	今ある授業にからめて取り入れていくよう進めている。教員の柔軟な発想を育てる必要もある。
青木教育長	そういった点でも、ある程度余裕がないと、教員も新しいものに取り組めない状況はあると思う。
C	ペッパーの件は、部活動としてクラブ化してしまったので、部活動を二つ掛け持ちしている状態となり、目に見えて大変になってしまったことから例として挙げさせてもらった。 部活動指導員について、やりたい人もいるが、どうつないでいけばいいか、役割もどう分担すべきかがわからない。
B	外部指導員も資格をとって保護者に安心してもらわないといけない。 何かあった時の保険も必要。
C	自身が教える側として携わった際も、保護者の反応が過敏になっていると感じた。
B	スポーツクラブでは許されることも、部活動指導員は行政とのかかわりもあるので、どう対応すべきかは難しい問題。
D	小学校では、勝つためではなく、自分が楽しむために入るという面もある。
A	部活動はやめればよかったと思っていた。子どもがやりたい場合は、外部の塾などで行

	えばいい。
C	青山小のようにスポーカル化し地域でやるようにする方法もある。
A	自分の時代は、部活動中に先生は顔を見せなかった。先輩が指導をしてくれていた。
B	私立だから可能な面もある。
C	金銭面で選択の余地がないこともある。
青木教育長	学校選択制の中では、部活動の有無は選択の際の大きな理由となる。
薩田委員	自分の子どもはダンス部だが、途中で先生が変わってしまったことがある。外部の指導員をお願いすることで存続できたが、この先どうなるのかは不安な面もある。
C	指導者への謝礼金等予算の確保は難しい面がある。スポーカルは文科省から補助金が出ているが、月謝等金額の設定に課題がある。
D	部活動は先生によるところが大きい。先生が変わると卒業生は学校に来づらい。
野澤支所長	消防団での活動など、学校の活動を地域に助けてもらうのではなく、地域の活動に学校が入ってもらうという考え方もあるのではないか。部活動は地域のクラブに任せては。
青木教育長	学校でやることにもやはり意味がある。
B	学校の部活は機会提供の場。そこから様々な活動に広がっていく。
C	本当にレベルの高い子どもは、クラブにいつてしまう。部活はそこには行けない子どもが入る場所。もし、地域のクラブに任せるのであれば、同じ学校の子どもたちだけの時間を作るなど方法は工夫する必要がある。
薩田委員	港区の地域性として有名なクラブチームがたくさんあり、行きやすいということはある。
C	部活動のレベルは平均化されており、それが面白いところでもある。
Bグループ	
釧持校長	教員になった頃の昔から仕事が忙しかったが、今の方が休みが取りづらいのではないかと考えている。また、最近は様々な団体から文書が山のように届く。新しいことを始めるのはいいが、スクラップアンドビルドでやっていかないと飽和状態になってしまう。
柿沼園長	幼稚園は小さな組織なので一人にかかる事務的な負担が大きく、一番大事な保育の準備にも時間が必要なので水曜日は18時退庁を守ろうとしているが、残りの4日間にそのしわ寄せがきてしまう。
A	定年退職後、サイエンスアシスタントをしているが学校の先生は忙しくて大変だと思う。先生がいっぱいいっぱい、理科室で実験ができないことが多い。サイエンスアシスタントとしてどうにか協力したいが、上手くいかない。チャレンジコミュニティ大学卒業生等、子どもと関わろうと意欲的な人はたくさんいるが、どう協力すればいいかわからないのが現状である。
B	以前からPTAとして働き方改革に関心を持っていた。夕方以降保護者対応で先生が忙しいかと思ったら、調査結果を見ると保護者対応の負担はそれほど高くない。しかし時間的負担だけでなく、精神的負担もあるのではないか。PTAとしても学校をサポートしていきたいので、何か協力できることがあれば教えてほしい。
釧持校長	この高輪地区は港区の中でも保護者が学校に協力的で非常にありがたい。何をお願いしたいかというより、感謝の気持ちしかない。
柿沼園長	幼稚園でも保護者は非常に協力的である。保護者対応よりも、提出書類などを含め事務的なことが負担になっている。
C	ノー残業デーを設定する通知を出してから結果は出ているのか。
新宮次長	この通知を出したからといって仕事量が減るわけではない。教育委員会事務局は、早く帰っても良いという職場環境をつくることを目的としてこの通知を出した。校長先生に何うと、そのような雰囲気ができたとおっしゃってくれる。
田谷委員	余暇の時間はしっかりと先生の自分の時間に充ててほしい。働き方改革については

釧持校長	民間より遅れていて、校務支援システムも立ち上げたばかり。このような通知も出してまだこれからというところ。
小島委員	田谷委員と全く同じ意見。働き方改革については私立学校の方が進んでいる。入試の関係で私立中学、高校に問い合わせても、時間外だと対応してくれない。私立学校のそのようなところを見習ってもいいのではないか。
釧持校長	公立中学校が私立中学校を見習うべきというのは、新しい意見。学校の先生から見て、私立中学校のこんなところを真似すれば働き方改革が進むのではというところはあるか。
小島委員 新宮次長	部活動、土曜授業は公立も私立もやっているが、私立中学校はしっかりと振替休日取得できる。都立高校においても教職員の数が多いので振替休日取得しやすい体制が整っている。
小島委員	教職員の振替休日取得できないのはよくない。私立と公立で制度が違うのか。
小島委員 A	教職員の配置や定数について違いがあるのかもしれない。事務の負担が大きいと調査結果が出ているが、スクールサポートスタッフ事業を東京都が行うので、少しでも導入できたらと思っている。給食費の徴収、未納分の督促も、現在学校単位で行っているが、教育委員会で行っている区もある。
小島委員 A	学校支援地域コーディネーターをもっと上手く活用できたらいいのでは。先ほど意見が出たように、情報提供をしっかりとすればもっと人材が集まるのではないか。保護者が協力しているところへ地域の人が入って行って、煩わしいと思われなければいいが。先ほどの教員の数についてだが、理科の教員も少なくなっており大変である。
小島委員 A	サイエンスアシスタントをしているという話があったが、どのように教員をサポートしているのか。
小島委員	私が派遣されている学校では自分を含めて2人おり、実験に使えるものを用意しておいて、先生たちがどれを使うか選ぶ。ただ、先生も忙しいので何をどれくらい用意したらいいか直前にならないと教えてもらえない。そのような点で上手く連携が取れていないと感じる。
釧持校長	せっかくサイエンスアシスタントをやっているのだから、上手く連携し先生の負担が減るようなシステムになってほしい。
小島委員 A	学校支援地域本部事業に関しては、資料に記載してあるようなことを手伝っていただき大変助かっている。また、部活動については、港区は他区と状況が違い、生徒数が多くても学年で100人くらいしかいない。そのため保護者からあの部活も創設してほしいと依頼があるが対応できない。学校の部活には入部せず、地域のクラブチーム等で活躍している生徒もいる。部活動外部指導員には大変助けられている。小学校のクラブ活動として理科クラブの手伝いをしたことがある。チャレンジコミュニティ大学卒業生にも経験者はたくさんいるので、ぜひそのような活動に活かされればと思う。
新宮次長 C	生涯学習推進課や学校支援地域コーディネーターに連絡すると良い。
小島委員 C	学校支援地域本部事業の目的は何か。
新宮次長 C	副校長の業務を減らすこと。出前授業等今まで副校長が誰を呼ぶかや講師との連絡、調整をしていたがそういった業務を代わりに担っている。
新宮次長 C	事務作業が一番大変と調査結果に出ているが、そういった作業は出来ないのか。
新宮次長	それは出来ない。
小島委員	それは出来ない。
新宮次長	スクールサポートスタッフだと出来るのか。
小島委員	色々な事務作業がある中で、出来る作業と出来ない作業がある。コピーなど簡単な事務は出来る。
釧持校長	部活動外部指導員について、中学校で部活動をサポートしてくれる人は足りているのか。
釧持校長	外部指導員が毎日来てくれるわけではない。こういう人がいますという人材情報はいくらあってもありがたい。

D	御成門でも人を探すのに大変苦労していた。どの学校、どの部活動でもすぐに人が見つかるように、人材バンクのようなものが欲しい。しかし、複数人が曜日ごと入れ替わりして1つの部活動を受け持っても、生徒が混乱してしまうと思う。
小島委員	教育委員会事務局としてはどうなのか。予算額は上がるのか。
佐々木課長	2月1日にあった区長プレス発表では、約3,700万円の予算案を組んだと発表した。
D	外部指導員1人あたりに払う単価が上がるのか。
新宮次長	単価は上がらない。
B	子どもが現在野球クラブに通っている。その先輩を見ると、中学校に行ってもクラブチームに通う子が多い。今は学校の部活動も数が少ない。本気で取組む子ほどクラブチームに行く。 カリキュラムの決めがあるので簡単にはできないのだろうが、授業数も少し減らしても良いと思っている。根本的などころから考えた方が良い。

5 芝浦港南地区教育会議

テーマ：地域で支える学校運営 ～教員が子どもと向き合う時間の充実に向けて～	
実施日時	平成30年1月30日（火） 午後6時から午後8時まで
実施場所	芝浦港南地区総合支所 区民協働スペース
出席者	公募区民等（敬称略・五十音順）：伊丹桂、上田徹、小倉真吾、永山幸江、福田清盛、古橋見和、間瀬法美、松本しずゑ、森島眞江、山森光陽 教育長：青木康平教育長 教育委員：山内慶太委員、田谷克裕委員、薩田知子委員 学校（園）長：酒井正美にじのはし幼稚園長、石井卓之芝浦小学校長、 区職員：新宮弘章教育委員会事務局次長、浦田幹男芝浦港南地区総合支所長
事務局	中島博子庶務課長、藤原仙昌教育政策担当課長、山本隆司学務課長、増田玲子生涯学習推進課長、佐々木貴浩図書・文化財課長、松田芳明指導室長、大浦昇芝浦港南地区総合支所協働推進課長 庶務課庶務係（佐京良江係長、中村直人、兵藤淳、細川安澄）、芝浦港南地区総合支所協働推進課（井上正彦地区政策担当係長）
議事次第	1 開会 2 青木康平教育長挨拶 3 出席者紹介 4 テーマに関する説明及び報告 （1）地区教育会議及びテーマについて 中島博子 庶務課長 （2）「学校支援地域本部事業」について 増田玲子 生涯学習推進課長 （3）「部活動外部指導員」について 松田芳明 指導室長 5 グループディスカッション 6 結びの挨拶 田谷克裕教育委員 7 閉会
グループディスカッションでの主な意見（要旨）	
Aグループ	
酒井園長	幼稚園は規模が小さく人員が少ない。代わりとなる人がいないので休むことができないのが実態。若手が増えており、指導やフォローが必要だが、その時間が確保しにくい。
A	教育委員会が送った通知は保護者向けに出したものか。自分は青少年委員だから見たが、一般の人は見ていないのでは。
中島課長	保護者と地域向けに出している。地域は学校評議員や部活動の支援に携わっていただいている方等、学校によって配布先が違う。
B	私は見ていない。
A	通知を出したことで劇的に何かが変わったという印象はない。 自分がPTA会長のときに感じたことは副校長が非常に忙しいこと。副校長ではなくてもできるような仕事がたくさんある。特に「学校徴収金」関係などは教員がやるべき仕事なのかは疑問がある。
B	自分がPTA会長のときに教育委員会との懇談の場があり、学校に事務仕事をする人つけてほしいと要望を出したことがあるがなかなか実現されない。
青木教育長	現在、国の動きの中で、教員がやるべき仕事とそうでないものを仕分ける作業を行っている。
B	副校長を補佐できるような人を探している。
青木教育長	民間でいう秘書のような人を雇えないか。 国では「スクールサポートスタッフ」等の動きがある。国と東京都では動き出しており、来年度からのモデル事業には、港区も手を挙げている。 今年度は、働き方改革の元年といえ、国や都、区も同じ考え方である。

B	先程意見の出た「学校徴収金」については、自分も同感だ。
C	職員室と事務の方がいる部屋が分かれていて、財務関係の事務は教員が行っているものと思っていた。
青木教育長	先生になる人のパーソナリティも重要。自分からあれもこれもやりたがって業務がどんどん広がってしまう。業務の棚卸が必要なことに加え、教員の意識改革が必要。意識改革は簡単ではないが、必要なこと。空いた時間を教育の充実に向けられればよい。若手の職員が増えている中、副校長の重要な職務の一つである教員育成に時間が取れていない。
酒井園長	幼稚園は事務職がないので、日常的に事務をしながら、教員指導を行うため、時間の足りなさにジレンマがある。また、教員の産育休などによる休みも非常に増えており、各園フォローが必要となっている。
B	P T Aから学校事務を手伝ってくれる人はいないかとの呼びかけがあったが、現役の保護者はだめだとか交通費は出ないなど条件的に厳しく、条件を緩めてもらわないとなり手がいない。
D	シルバー人材の活用で何かいい方法はないか。
青木教育長	能力のある人がたくさんおり、仕事をリタイアした人がしているので、ある程度時間の余裕もあると思う。
D	時間的な制約はあるが手伝いたいという人もいる。それぞれの時間の都合に合わせて柔軟に活用していくことも考えるべき。
D	父が横浜市で副校長をやっていたが、当時はそんなに忙しそうには見えなかった。今の副校長はそんなに忙しいのか。
松田室長	昔と学校規模が違うことや、調査が増えていること、計画等も自前で策定するようになったことなど、質を求めることでコストも増えている。
E	少し専門的見地から話させてもらうと、教員の勤務実態調査を始めたときの残業は週2時間だったものが、10年前は日に2時間となり、今はプラス30分。
	国際的にみても日本は長く、部活動をなくせば半分くらいにはなる。
	また、中学校の先生は、他の同僚の先生とコミュニケーションをとる時間が短い。
	教員の意識としても自分たちは忙しいと思っているが、それは他の働いている人も同じであり、お互い様ともいえる。
	また、先生は休憩時間がないのも問題。先生が休む時間を作るために地域人材を活用できれば。
D	教員の採用時の意識も重要。社会人を経験して教員になる人もいる。学力だけではなく、意識の高い人を採用できれば。
浦田支所長	30～40年前も先生方は忙しかった。学校の中にいる教員と事務職の双方の意識を変える必要がある。
	地域の方は想定以上に協力をしてもらえるので、その力をうまく活用できれば。
A	芝浦港南地区はお祭りなどでも、地域の力が非常に大きいと感じる。
	学校が地域の力を求めていると、せつかくの地域の方もアイドル状態となる。P T Aなどはすでにある程度学校に入りやっている部分もあるが、申出制ではなく、ある程度無理やりにでも募っていった方がいい。
B	台場地区は、前々から学校支援地域本部をやりたいと言っていたが、P T Aの反応としては何でも押し付けられてしまうと捉えてしまう人もいる。地域への説明は十分に行った方がいい。
田谷委員	何をやるべきで何をやらなくていいものかをしっかり仕分けしないといけない。
	どこからどこまでがP T Aでやるべきかという仕分けは必要。
	放課G O→の事業を始めるときに、スクールサポーターに一人も立候補がなかったことがあった。共働きなども多く手伝えないとのことだったが、町会にお願いをしに行ったら、引き受けていただき町会長までサポートに入ってくれた。子どもと地域とのつながりが新たにでき、やってみてはじめてわかることはたくさんある。
E	学校支援地域本部や学校運営協議会にかなりのアレルギーを示す教員がいる。転出

	<p>入が進む中で、学校と地域のパワーバランスが崩れることの恐れがある。大事なのは地域に「開くこと」と「閉じること」の仕分けをすること。</p> <p>うまくやっているところは、コーディネーターの机が学校の中にある。台場地区で困ることは、コミュニティの中心が「学校」なので、学校に関わっていない人だと情報が入ってこない。学校に関わっていない人とのコミュニティを構築する必要があるのでは。</p>
C	<p>学校がコミュニティのプラットフォームとなる覚悟があるか、またなる必要があるか、そういった仕事は教育委員会でやるべき仕事かといった点は検討する必要がある。学校が調整をすることになると、逆に教員の業務量が増えることにつながってしまう。</p>
A	<p>学校のニーズを把握しながら、地域のニーズをコーディネートしないと混乱してしまう。</p>
青木教育長	<p>学校地域支援本部のコーディネーターは退職校長がやっており、学校の状況などもある程度分かっているが、机のある場所が教育委員会事務局内なのでその点のギャップはある。</p>
D	<p>コーディネーターになる人は長く学校にいることになるので、それが任せられる人となると人選も難しい。</p>
B	<p>質問だが学校地域支援本部とコミュニティスクールの違いは何か。</p>
青木教育長	<p>学校運営協議会は学校評議員や学校支援地域本部の分野を包含するイメージ。校長の推薦に基づき教育委員会が委嘱する公務員の扱い。</p> <p>権限と責任を持っており、京都市では取組が進んでおり、PTAとは役割を分担し、うまく運営している。</p>
Bグループ	
石井校長	<p>働き方改革について、港区はICTによる事務の効率化等、他区より進んだ取組をしていると思う。教育委員会が率先してこのような取組をしてくれてありがたい。教員には子どもに教えるのが趣味だという人が多く、教材の作成や授業の準備で朝早くから遅くまで学校にいる教職員もいる。特に副校長は調査や報告書等事務作業が多い。教職員全員が早く退庁しようという意識することが必要。</p>
A	<p>「学校現場における教職員の働き方の改善に向けた取組について」の通知をもらったので学校現場でも働き方改革の動きがあるのは知っていた。教職員が毎日遅くまで学校に残って仕事をしているのも知っていたので、PTAの立場からも教職員は大変だなと思っていた。ゆとりのある中で子どもに接してほしいので、教職員にゆとりを持たせるためにPTAも協力できることがあれば協力したい。</p>
B	<p>自分の作成した教材が活けると嬉しい気持ちはよくわかるが、毎日学校に遅くまで残って作成するのではなくて、早く退庁することでもっと違う側面から教材を作成できるのではないか。</p>
石井校長	<p>その通りだと思う。展示会等に行ってみ聞を広めるのもとても良い。そのような経験から得たものが教材作成に生きてくると思う。</p>
B	<p>本物に触れるということが子どもにも先生にとっても大切。</p>
C	<p>地域の立場からいうと、自分はKissポート財団の英会話教室の講師を20年くらいしており、その他にも区内のインターナショナルスクールへ通う子どもたちのスクールバスの送迎に付き添ったりしている。英語でディスカッションするなど一種のコミュニティができており、これからの子どもたちには自分の意見をしっかり表現できる能力や対話能力を身に付けることが重要だと感じた。</p>
石井校長	<p>資料にある学校支援地域本部事業は、地域の力を有効に活用できて非常に良い。教員が授業をしていると電話対応ができず、子どもが帰ってからの対応になるとどうしても相手先が帰ってしまっている。相手とのやり取りを地域コーディネーターに任せることによって、連絡・調整が早く進められるようになった。</p>

	大使館連携等英文でのやり取りがあるが、コーディネーターが英文を訳してくれ、非常に助かった。来年度に大使館連携の一環でその国の料理を給食で出すことになる等話がどんどん進んでいる。相撲、フェンシング、ボッチャ等様々な体験ができるのはコーディネーターのおかげ。
A 石井校長	地域コーディネーターはボランティアか。
A	有償ボランティアである。
石井校長	資格等必要なのか。また、サマースクールをやった時、コーディネーターは何人いたのか。
A	資格は特に必要ない。サマースクールをやった時はコーディネーターが2人、教職員を含めて5人でやっていたが、以前よりだいぶ楽になった。
D	今PTAも改革をしようとしている。子どもたちのためにとってもボランティアの範囲を超えてきている。子育てしながらPTAをやっている人もいるので大変。仕事量を減らさないと次にPTAをやる人が出てこない。お台場地域では新しい人を地域の中に入れようと思っても、自主的に参加してくれる人が少なく、今後地域の担い手をどう育てていくかが課題である。
石井校長	教員の働き方改革の話に戻るが、事務作業が多いと感じている教職員が多いと結果が出ているので、教職員から具体的にどの作業が大変か、不要だと思っているか挙げてもらうのはどうか。サマースクールについては、初代の校長が始めたが教職員が代わるとなくなってしまう。教職員の異動によって左右されたりするので、地域が主体になってやれば先生方もやりやすいのではないか。地域コーディネーターを含め地域の人がやるような仕組みができれば良いと思う。また、ボランティアが少ないと言っていたが、強制はできない。やれる時にやれるような体制が必要。子どもたちは地域の宝であり、子どもの為ならという人がいるので、ぜひ協力できる仕組みをつくってほしい。
B	校長、教職員が代わっても地域コーディネーターがいれば講座等は引き継がれていく。
石井校長	本当に先生を捕まえるのは大変。授業があるのでなかなか連絡が取れない。やっと連絡が取れたら、もう夜になっていたということあった。
E	この間他区の学校に連絡をしたが、10分くらい繋がらなかった。
石井校長	自分は予備校で講師をしていた経験があるが、予備校では教える、事務、経営とそれぞれ分かれていたので、講師は授業に専念できた。今はICT化が進んでいるので、フォーマット化したりアプリを利用する等そういう部分で業務を減らせないか。芝浦小学校では2月1日より試験的にメールシステムを導入し、欠席の連絡等はメールでやり取りをするようにする。
E	事務作業をもっとICT化出来るのではないか。
石井校長	学校としては、月末に5日でも5時間でもいいので副校長の補助として事務作業をする人が欲しい。
新宮次長	業務のICT化は今進めている。
B	AIに定型的な質問を対応してもらうことや、留守番電話、出退勤システムの導入、タブレットの配布等で負担軽減を図る。子どもに向き合う時間が増えるが、見聞を広めるとい意味で教職員の趣味等にも費やしてほしい。
石井校長	学校支援地域本部の地域コーディネーターは現在4校でやっているが、芝浦小学校ではとともうまく機能している。地域コーディネーターが地域のつながりを一番持っているのので、できる範囲で広げていきたい。
B	区の職員は出退勤システムがあるのになぜ教職員は出勤簿なのか。
山内委員	異動の関係での引継ぎ等があるからかもしれない。しかし、出退勤システムを導入することは他区から羨ましがられる。また、夏休み期間の学校閉鎖期間を設けていることも大きい。
	みなさんの意見に共感する点が多い。
	教員にはいい意味での暇な時間が必要。学校にいるときも手が空いている時間があ

<p>A</p> <p>B</p> <p>山内委員</p> <p>薩田委員</p>	<p>れば子どもをよく観察できる。また、子どもが大人になった時に一番よく覚えていることは、授業の内容ではなく授業で教員が話した雑談だと思う。子どもはそのような雑談の中で好奇心が刺激されると共に、広い見識を身に付けていく。そのようなことから、教員には自分の時間を大切にしてもらいたい。それが豊かな子ども、学校をつくっていく上で欠かせないものだと思う。</p> <p>電話対応の問題は切実。朝だけでなく夜まで大変だという話を伺った。保護者が子どもが忘れ物をしないように持ち物の確認のために電話をすることもするという発言もあった。学校はもっと保護者に「親切としての不親切」をしていいと考える。親が先回りして忘れ物をしないよりも、忘れ物をした方がいい。そうすれば子どもは次回忘れ物をしないようメモを取るようになったり、先生の注意を良く聴くようにと学習をしていく。</p> <p>P T Aとして、保護者と先生の間に入って対応したことがある。P T Aは保護者と教員の間での立場なので、保護者の意見も教員の苦労もどちらもわかる。教員と保護者が感じていることには温度差がある。P T Aとして、保護者と教員の間にとって連携を図れるよう努力していかれたらと思う。</p> <p>若い経験のない教員は保護者からクレームなど対応が難しいこともある。教員は忙しいのはわかるが、そこを学校内でフォローしていかれたらいい。</p> <p>その点について言えば、もっとそういうことをサポートできるよう副校長に余裕を持たせなければいけない。生徒のことも教員のことも副校長はよく知っているのだから、副校長がフォローに入るのが一番いい。副校長の事務をどれだけ減らせるかが課題である。</p> <p>長年P T Aをやっていたからわかるが、今はフルタイムで働いている人が多い。働きながらP T A活動を続けるのは大変だが、やってみるといろいろな教員と話しが出来たりとメリットも多いので、保護者、地域の人にもっと興味を持ってほしい。P T A活動を通して、親も子どもも一緒に成長していかれたらと思う。学校からも保護者や地域に気軽に声をかけてほしい。</p>
---	--

Ⅲ 地区教育会議を終えて

今年度も地区教育会議には多くの方々が参加していただき、貴重な意見を頂戴しました。この場をお借りして御礼申し上げます。

教員の働き方改革が社会問題化している中、特に副校長・副園長への業務集中が大きな課題であることが皆さんの共通認識でした。副校長・副園長は担任すべき本来業務に専念することが重要であり、まずは現在副校長・副園長が担っている業務を仕分けし、本来業務ではない業務については、より適切なマンパワーに委ねるべきとのご意見がありました。また、港区においては、そのマンパワーとなりうる多くの人材が存在しているが、時間等の制約により業務とのマッチングが難しいという課題も提起していただきました。確かに、教育委員会では、学校運営の充実のため学校支援地域本部事業を実施しておりますが、地域の方々をはじめ民間事業者や各種団体など、多くの方々に協力いただいております。人材は豊富であり、多種多様です。しかし、様々な事情からその人材を最大限活用しているとは言えない状況です。

今後、多くの人材に学校運営を支えていただけるよう、人材バンクや人材コーディネーター等の仕組みを構築し、港区の地域性を生かした教員の働き方改革の具体化につなげていきたいと考えております。貴重なご意見ありがとうございました。

教育長 青木 康平

今年のテーマは「地域で支える学校運営」。これは、教員は本来余裕をもって子どもたちと十分向き合い、豊かで充実した教育を行うことが期待されているところ、近時は益々教員の長時間勤務が進み大変心配される状況となっているので、これを打開するための一端として、地域の皆様にどのように学校運営を支援してもらえるか話し合うのが目的です。

ご参加戴いた皆様もこの状況については大変危惧しており、解決のためのご意見、ご提案を積極的に述べていただき大変活発な会議となりました。

教員でなければ出来ないことと教員でなくても出来ることを峻別し、後者は徹底して他人に任せること。そのため、任せられる仕事を行う事務・用務の職員を採用する、あるいは地域の方々の支援をお願いする。後者については個別的な支援よりも、学校支援地域本部が包括的、統一的に行った方が効果的であり、この制度がより広い事項を担当できるよう、更なる充実を望むご意見が多かったと思います。更に、教員の仕事を積極的に減らすことも大事で、文科省や教育委員会のアンケート等も厳選すべきであり、また、新しいイベント等を始めるときはスクラップアンドビルドでやらないと教員は飽和状態となってしまう、とのご意見にはまさしくそのとおりの思いでした。

教育長職務代理者 小島 洋祐

教育委員一年目の私にとってはじめての地区教育会議は、現場の先生方の発言、保護者の発言、地域住民の皆様の発言を直接に聞き、これからの教育の在り方を様々考える貴重な機会となりました。立場はそれぞれ違っていても誰もが、地元の学校をより良くしたい、地元の子どもたちの為に力を尽くしたいという思いに変わりはないことは心強いと思います。頂いた御意見を教育委員会での議論にも活かして行きたいとの思いを深くしました。

今回は、教員の負担を如何に軽減するかを巡って多くの議論がなされましたが、第一に現場での実感と実証データの両面からの分析を進める必要があると考えます。第二に、学校の役割と家庭の役割、地域の役割がそれぞれあることを再認識し、学校に依存しすぎずに家庭と地域が協力する文化を創る必要があると思います。

教育委員 山内 慶太

毎年、地区毎にご参加の皆様と膝突き合わせてご意見を伺うことのできる、この機会をととても楽しみにしています。今回も五地区の皆様と楽しく懇談しました。特に今回は、教職員の働き方改革、学校支援地域本部について、部活動外部支援員について、を中心話題といたしました。

まず、働き方改革については、概ね皆様からご賛同いただけたと感じました。しかし、熱心な教員ほど、残業時間が多くなり、曜日を決めて定時帰宅をしても、その前後の日により多くの残業が出てしまうなどの切実な話も出ました。コピーなどの簡単な作業は、教員以外の人に任せられないか検討課題もありました。

学校支援地域本部について、まだ皆様のご理解が十分でないと感じました。できれば、十分な説明をもって、地区の方々のご協力をいただける組織にしたいと思います。そしてもっと身近な学校を目指していきたいと思います。

部活動外部支援員については、その人材について、各地域に人材が結構いらっしゃることが分かり、それを何とか活用できないか議論されました。

今回も、熱心な皆様のお陰で、実り多い会議になりました。五地区それぞれの特徴ある、ご意見もいただきました。ご参加いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

教育委員 田谷 克裕

今回の地区教育会議に参加し、幼稚園・学校の先生方からお話を伺い、先生方は子どもたちと関わるだけでなく、事務仕事も沢山あり、これが大変なのだということが良くわかりました。

大変な思いをしながらも、それでも、子どもたちの為に！と真剣に向き合い、指導して下さっているということも実感いたしました。

そして、地域・保護者の方々の中には、すでに積極的にお手伝いして下さっていることを知り、感激いたしました。

しかし、もっと沢山の方に少しずつでも学校に関わっていただく必要があります。私も、保護者としてよりいっそうお手伝い等に参加し、まわりの方々にも活動に対する理解・参加のお願いに努めたいと思います。

教育委員 薩田 知子